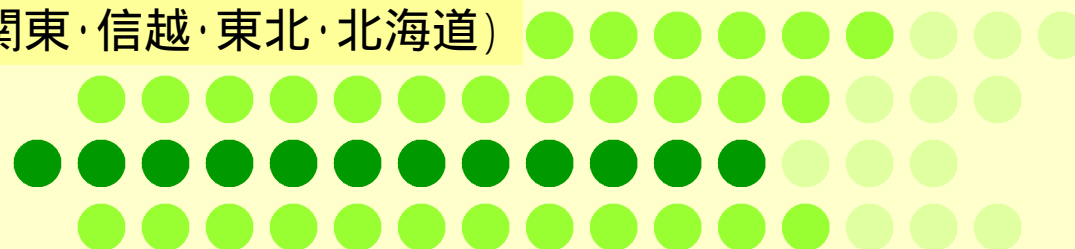


「公衆電話」に関するアンケート調査結果

【小学校への「公衆電話教室及び171サービスの周知促進」時のアンケート調査結果・分析及び今後の展開等について】

平成22年2月5日

財団法人 日本公衆電話会
東日本エリア統括支部
(東京・関東・信越・東北・北海道)



- ● 『小学生と公衆電話』について実施しましたので、そのアンケート結果等について掲載します。

1.趣旨等

公衆電話は社会生活に欠くことのできないインフラとして認知されていますが、今後の事業活動を指向するにあたり、「公衆電話に関する利用動向調査」を行い、その調査結果を踏まえ、日本公衆電話会の今後の事業活動に反映させることとします。

平成20年度、東京統括支部で「小学生等向け公衆電話教室、171サービスの周知促進」を実施（4校）し、併せて平成21年度にアンケート調査を実施した調査結果及び分析



2.アンケート実施小学校及び収集数等

・東京統括エリア

- (1) 相模原市立小学校
・実施年月日:平成20年10月7日(火)
・アンケート収集数:生徒86名
- (2) 八王子市立小学校
・実施年月日:平成20年12月22日(月)
・アンケート収集数:生徒352名
- (3) 新宿区立小学校
・実施年月日:平成21年4月24日(金)
・アンケート収集数:生徒88名
- (4) 武蔵野市立小学校
・実施年月日:平成21年7月18日(土)
・アンケート収集数:生徒42名、一般59名
- (5) 武蔵野市防災演習
・実施年月日:平成21年8月23日(日)
・アンケート収集数:生徒11名、一般24名
- (6) 立川市立小学校
・実施年月日:平成21年10月31日(日)
・アンケート収集数:生徒86名、一般24名

・東北統括支部エリア

- (1) 宮城県登米市立小学校
・実施年月日:平成21年2月27日(金)
・アンケート収集数:生徒36名
- [参考]
岩手県盛岡市立中学校
・実施年月日:平成21年7月24日(金)
・アンケート収集数:生徒21名(特別学級)

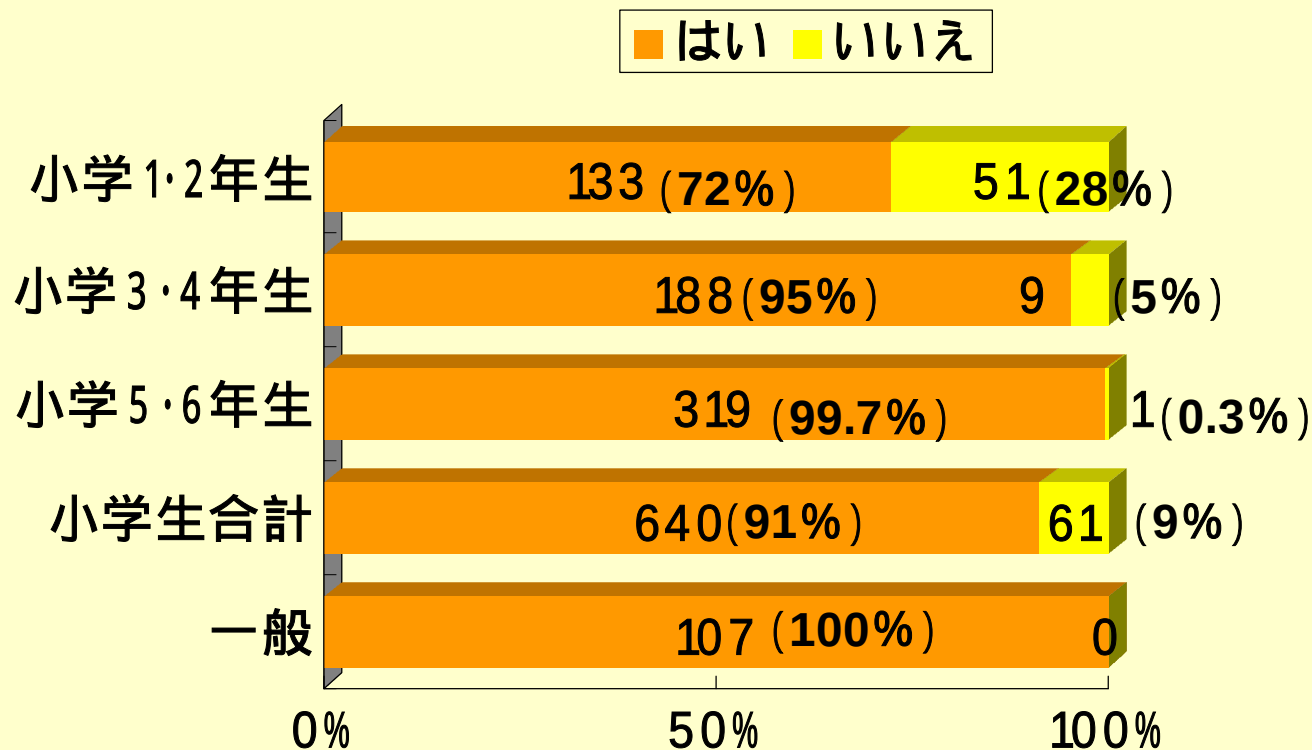
・アンケート数合計

生徒 701名 / 一般 107名

アンケート項目及び結果の詳細は
別添のとおりです。

3. アンケート結果及び分析

Q.1 公衆電話を知っていますか？



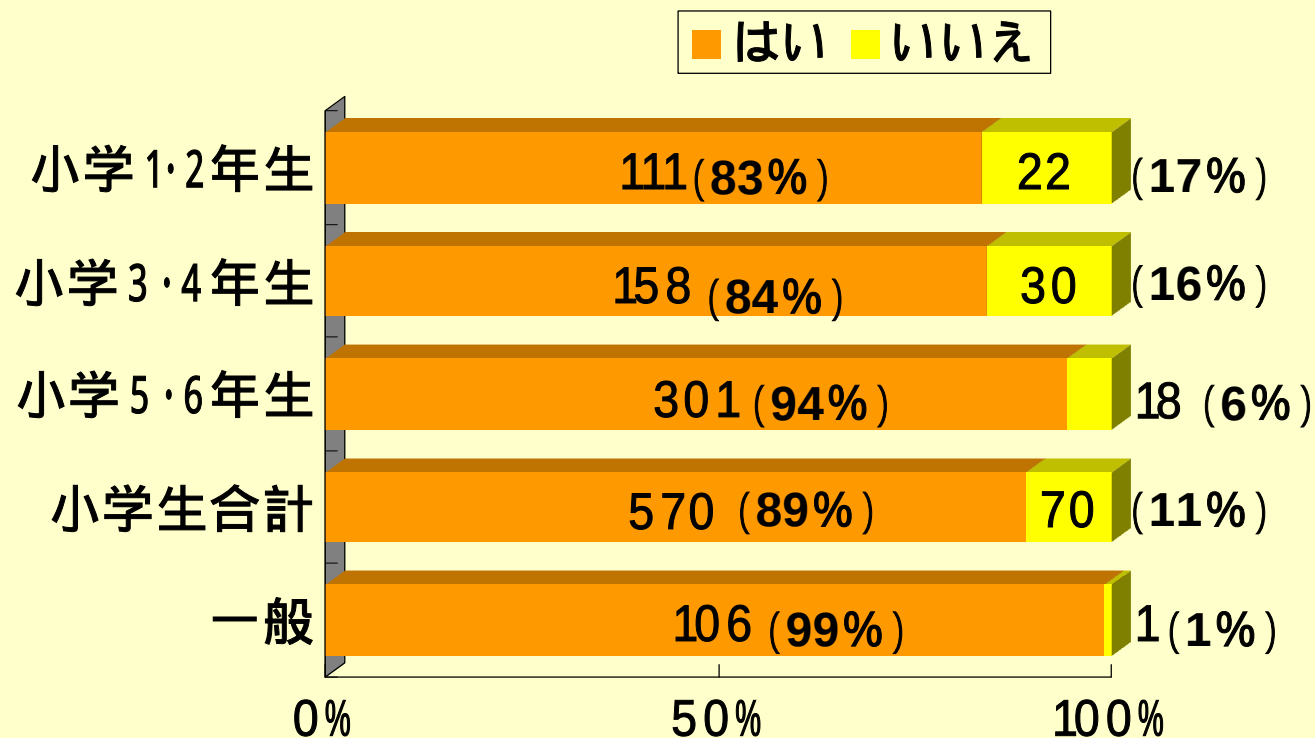
・分析

- 学年別では、低学年(1～2年)の認知率(72%)は低く、高学年(5～6年)になるほど認知率(ほぼ100%)は高くなっています。[全体の認知率は91%]

低学年であっても、公衆電話そのものを知らない生徒がいたことは、想定外。

学校別では、母数等(収集数、調査した学年)は異なるが、差異(73～100%)が出ています。[別添資料参照]
[参考]一般(保護者、教諭)においては、公衆電話の認知率は100%です。

Q.2 公衆電話のかけ方を知っていますか？



・分析

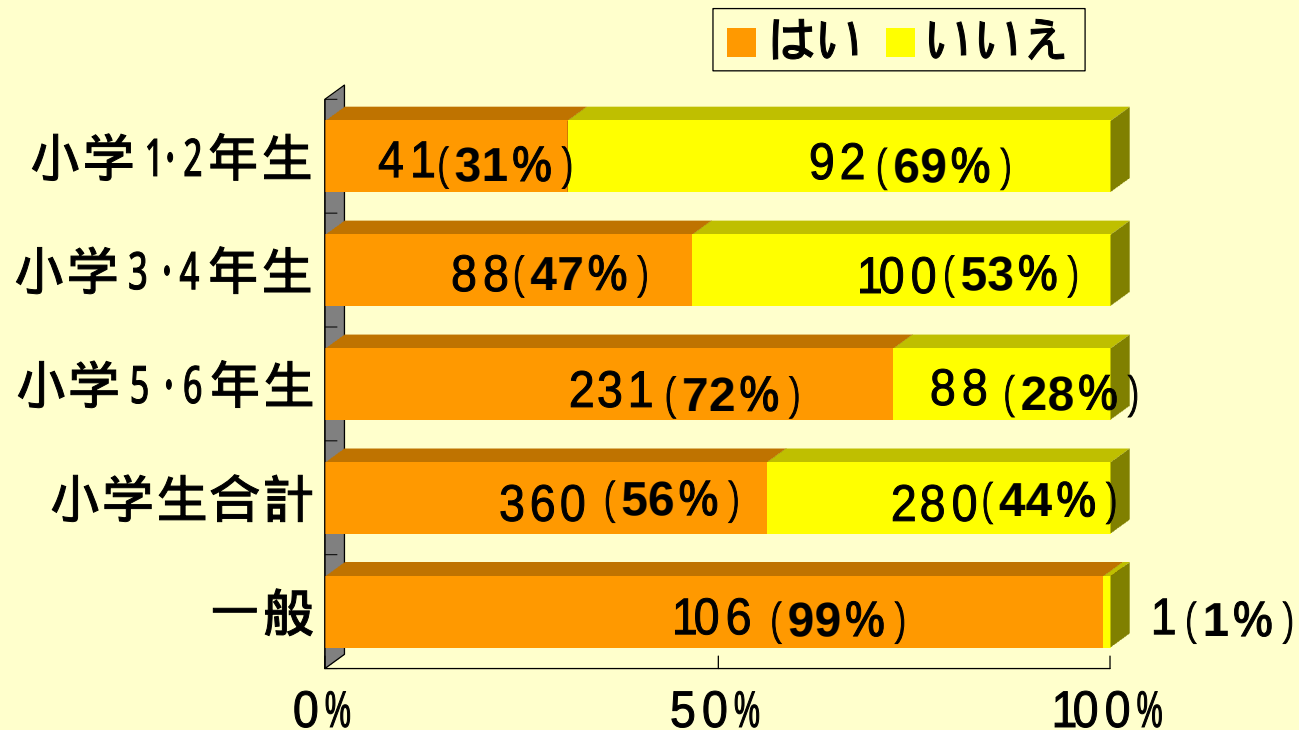
- 低学年は公衆電話のかけ方を知らない生徒(17%)がいますが、高学年は大半(94%)の生徒がかけ方を知っていました。

公衆電話は知っている(Q1、91%)が、その内「かけ方を知らない」生徒が11%いることが判明しました。

学校別には、差異(58～100%)が出ています。[別添資料参照]

[参考] 一般においては、かけ方はほぼ100%知っていました。

Q.3 公衆電話を使ったことがありますか？



・分析

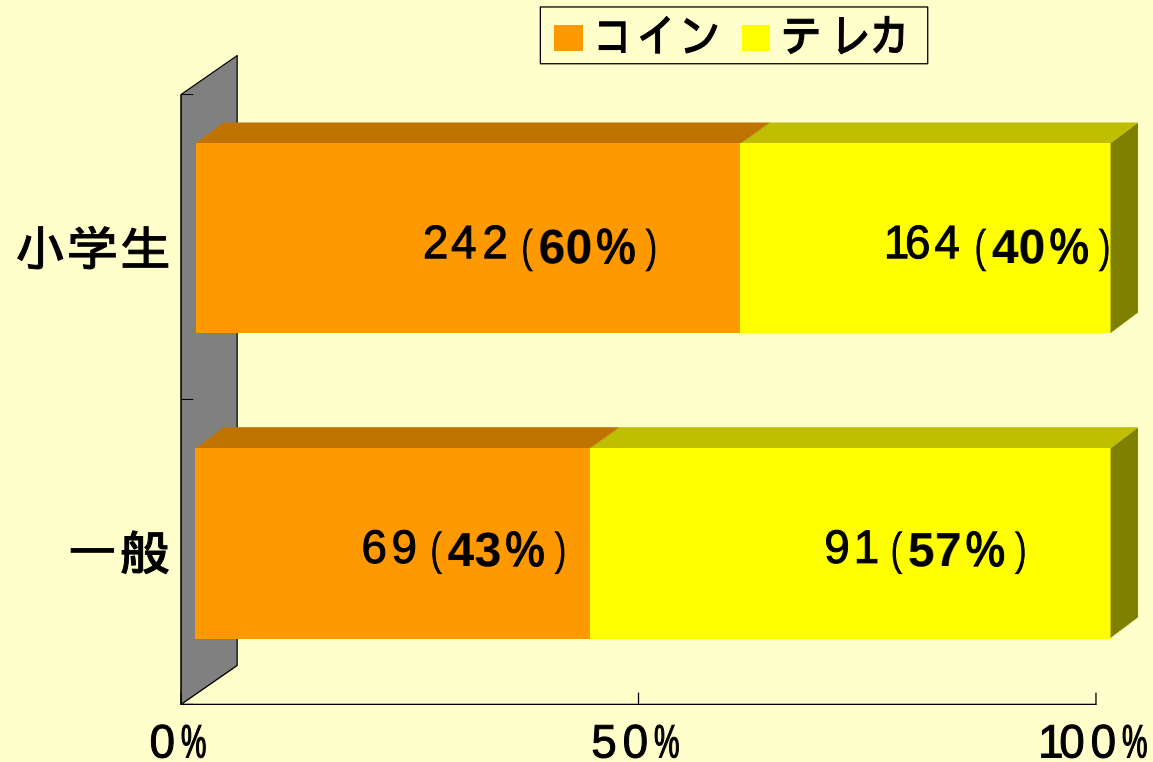
- 公衆電話のかけ方を知っている生徒は89% (Q2) でしたが、実際に使ったことがある生徒は、56%と少なくなりました。

学年別では、高学年になるほど使用率は高くなっています。

学校別には、差異(33～74%)が出ています。[別添資料参照]

[参考] 一般においては、ほぼ100%が使用した経験がありました。

Q.4 公衆電話を使った時はコインかテレホンカードか？

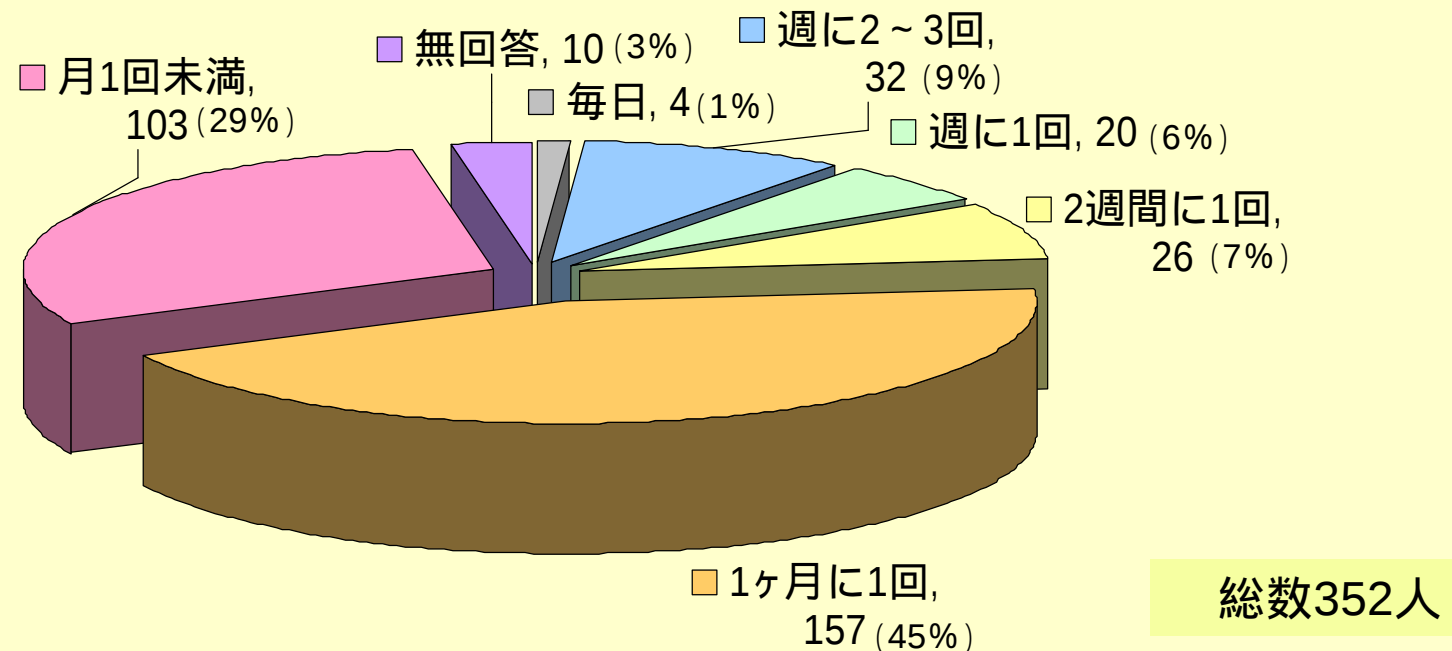


・分析

- 学校別には、コイン利用率に差異(49～72%)はありますが、全体ではコインの使用率(60%)がテレホンカード使用率(40%)を上回っています。

[参考] 一般においては、テレホンカード使用率(57%)が少しコインを上回っています。

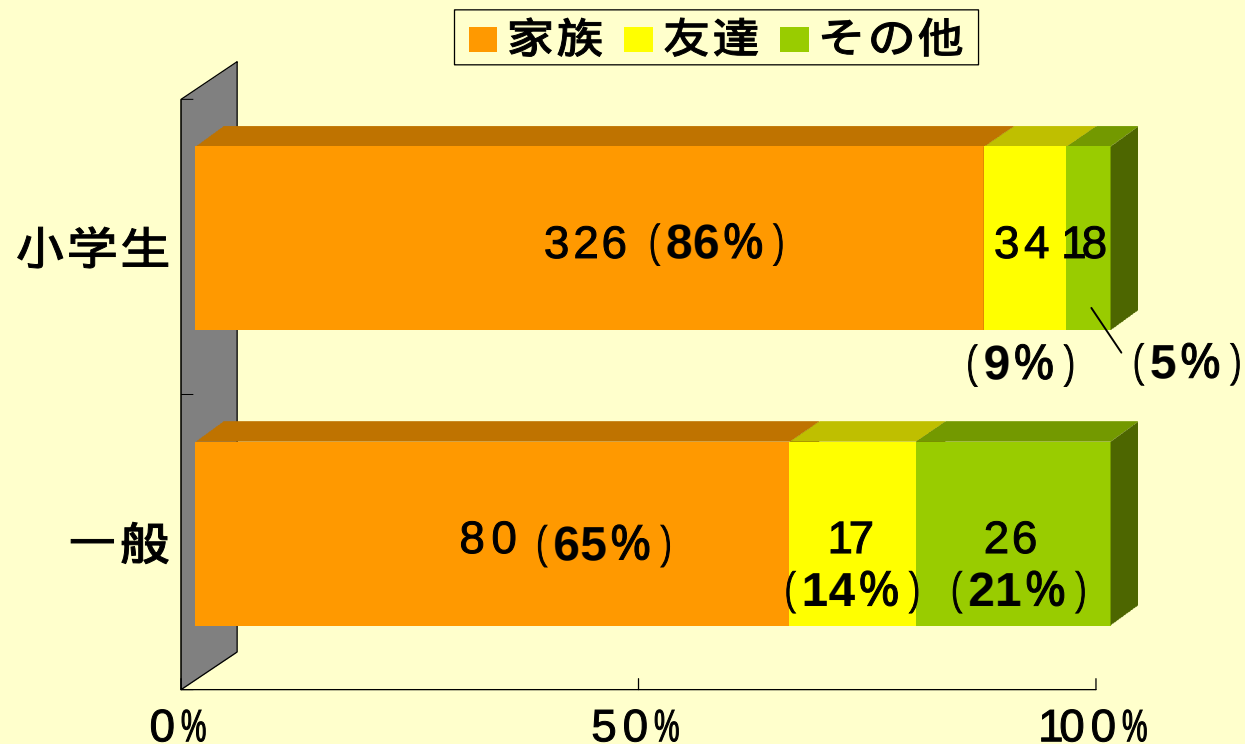
Q.5 公衆電話の利用頻度(小学生のみ)



・分析

- 学校ごとに差異[別添資料参照]はあるが、「1ヶ月に1回」(45%)、「月1回未満」(29%)が多数(74%)を占めています。なお、週に数回利用する高利用の生徒(9%)もいます。
公衆電を使ったことがある生徒は56%(Q3)ですが、使用する生徒の利用頻度は比較的高いと思われます。

Q.6 公衆電話は誰にかけましたか？



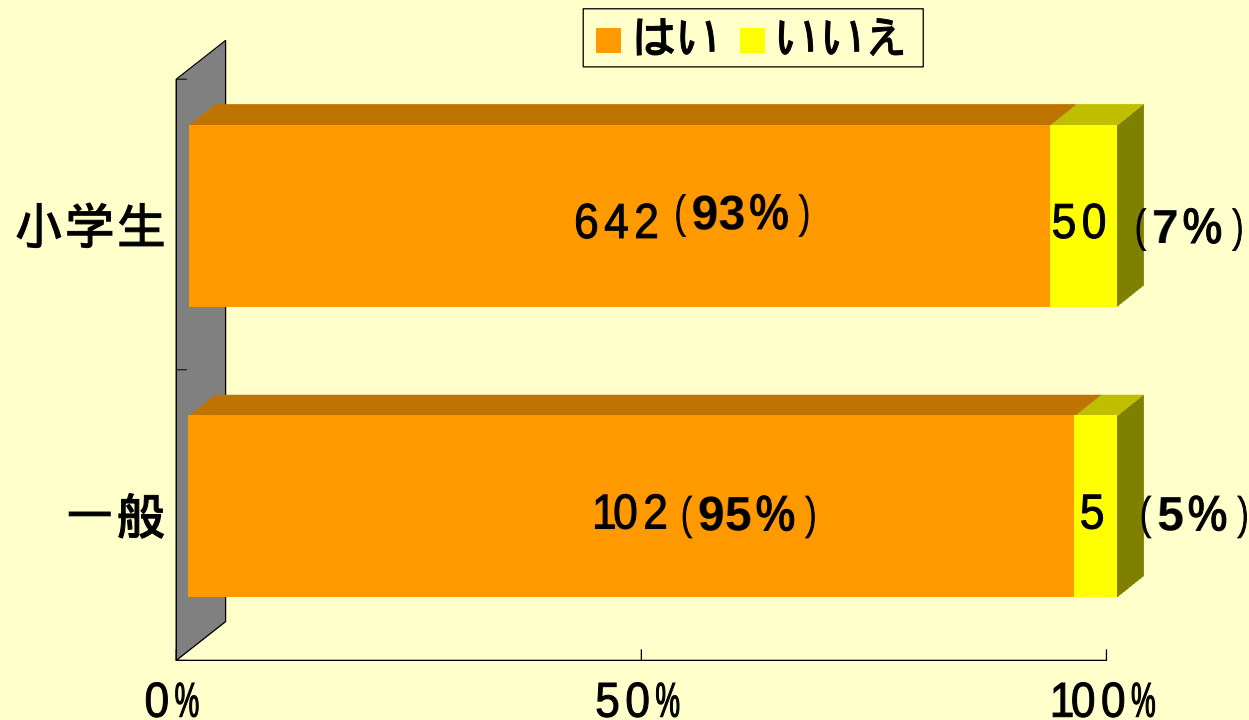
・分析

- 学校ごとに差異[別添資料参照]はあるが、全体では86%が「家族への通話」と回答しています。

「友達」への通話は比較的少なく、公衆電話からの通話は家族への連絡など、必要最低限の利用に限られています。

[参考] 一般については、小学生と同様に「家族への通話」(65%)が多いが、友達等への通話の比率は、小学生より多くなっています。

Q.7 公衆電話は必要だと思いますか？

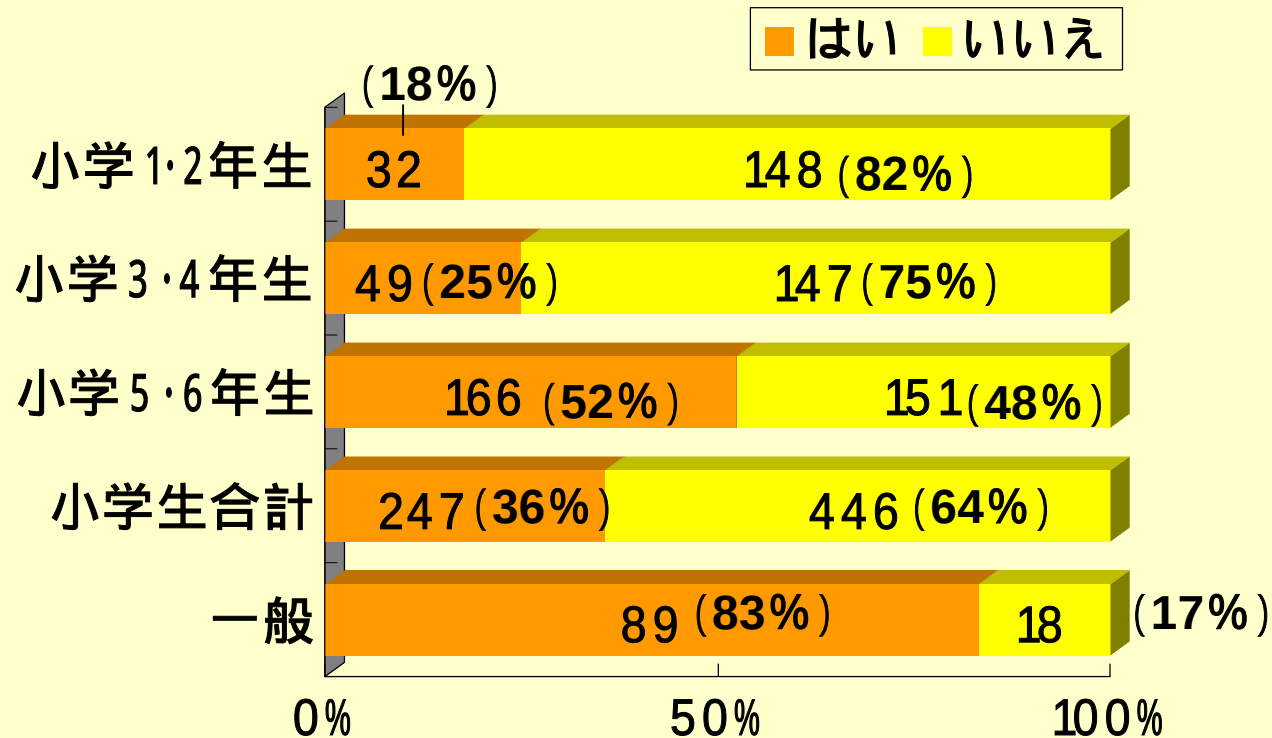


・分析

- 公衆電話の必要性については、小学生、一般とも高い割合で「必要だ」(90%以上)と回答しています。

災害発生時、緊急時における公衆電話の役割には、理解と関心は示しています(聞き取り調査)が、平常時の公衆電話の利用率(Q3、56%)は低い傾向を示しています。

Q.8 テレホンカードを持っていますか？



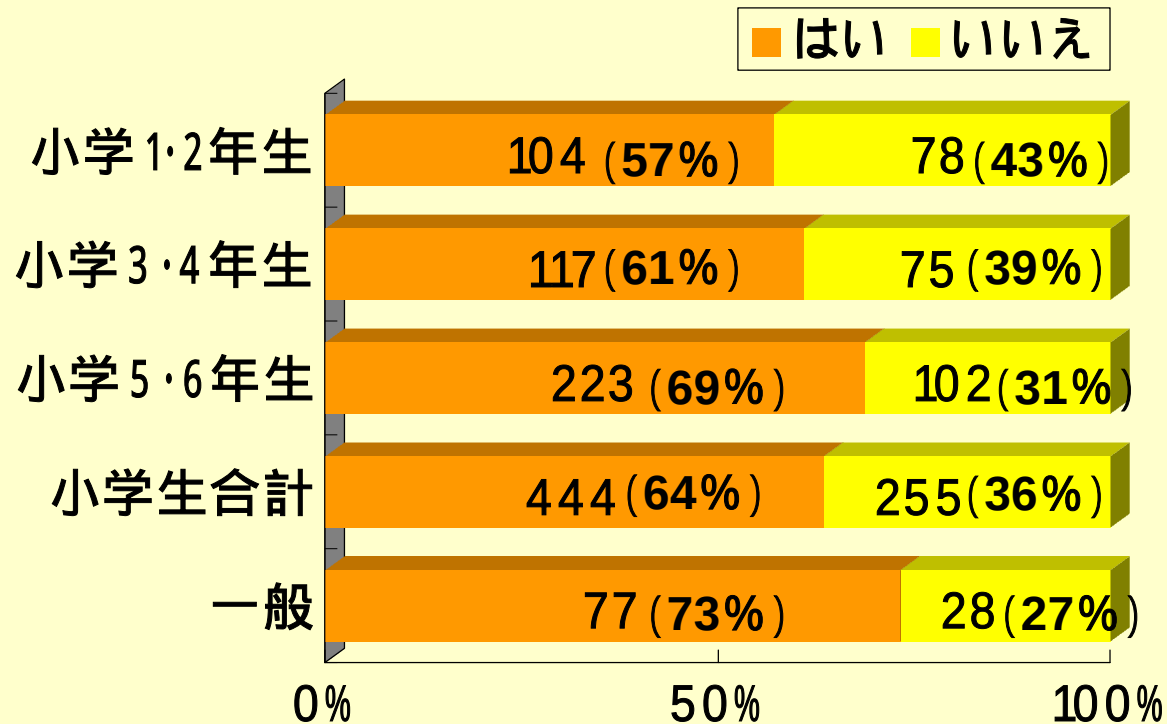
・分析

- テレホンカードに比較してコインの利用率(Q4、60%)が高いこともあり、テレホンカードの所持率(36%)は低くなっています。

災害発生時、緊急時には、通話時間が長くなることも想定され、テレホンカードの所持の低さが懸念されます。

[参考] 一般のテレホンカードの所持率(83%)は高いが、子供に持たせようとする傾向は低いとされます。

Q.9 自宅近くの公衆電話のある場所を知っていますか？

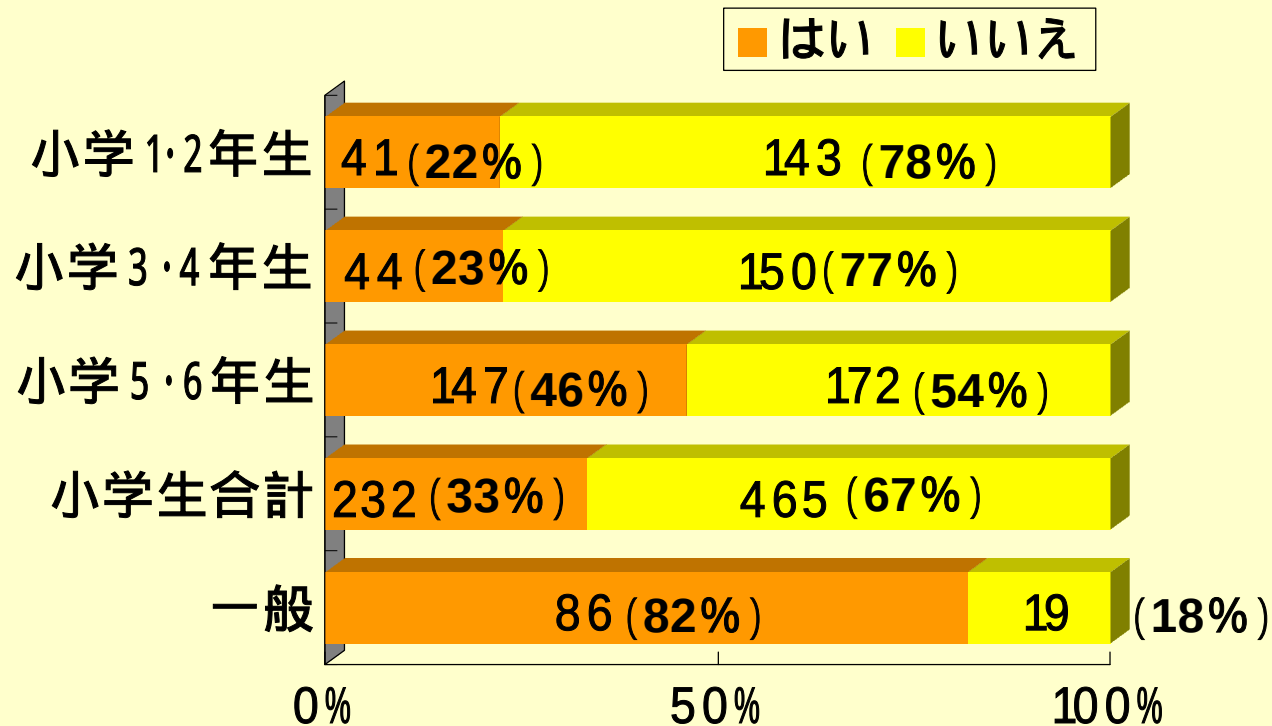


・分析

- 近隣の公衆電話の認知率は「64%」であり、また、学年によっても大きな差異はなく、全体として低い現状が判明しました。

[参考] 一般については、認知率は小学生より少し高くなっていますが、「27%」が知らないと回答しています。

Q.10 災害用伝言ダイヤル171サービスを知っていますか？



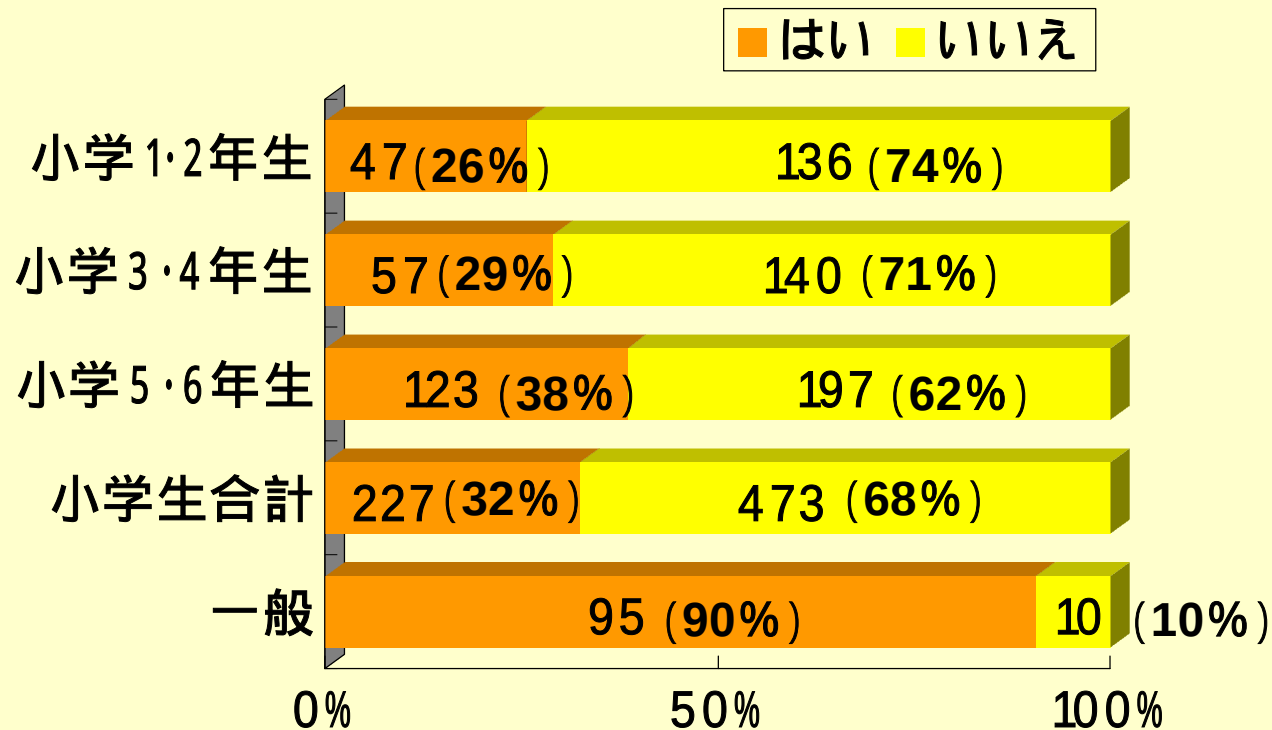
・分析

- 171サービスの認知率は「33%」と低く、「録音・再生」の体験は、ほとんどの生徒が初めてだと回答(聞き取り調査)しています。

171サービスの周知促進の必要性が判明しました。

[参考] 一般については、認知率(82%)は比較的高くなっているが、それでも「18%」が知らないと回答しています。

Q.11 携帯電話を持っていますか？



・分析

- 携帯電話の所持率は「32%」と低く、高学年に進むにしたがって所持率は上がるものの、それでも50%を切っていることが判明しました。

携帯電話によるイジメ等の報道がありますが、予想したより所持率は低くなっています。

[参考] 一般については、90%が所持しているが、60歳以上では、80%(別データによる)が、所持していない。

● 総括

○ 公衆電話関係

- ・ 小学生においては、
 - 「公衆電話を知らない」 9%
 - 「公衆電話のかけかたを知らない」 19%
 - 「公衆電話を使ったことがない」 49%
 - 「自宅近くの公衆電話のある場所を知らない」 36%ことが、今回のアンケートで判明しました。
- ・ 地震をはじめとする災害発生時の公衆電話の役割は大きいと思われませんが、今回のアンケート結果では、緊急時の対応に一抹の不安が感じられます。
- ・ 平成20年度から、小学生に対して「公衆電話教室」を実施していますが、今回のアンケート結果から、公衆電話の必要性も認識(Q7、90%以上)していることから、今後も本件施策を継続し、公衆電話の使い方等を周知・啓発することは必要だと思われます。

小学校での「公衆電話教室(防災教育)」の継続実施は必要

● 総括

○ 防災マップ関係

- ・小学校においては、「自宅近くの公衆電話のある場所を知らない」が「36%」と回答していますが、一般の方々も、「27%」が知らないと回答しています。
- ・平成21年度の施策として、公衆電話設置場所をプロットした「防災マップ等の作成」を推し進めることとしていますが、本件のアンケート結果からも、小学校、地方自治体等とタイアップして早急に検討し、実現させる必要があると思われます。

「防災マップ等の作成」の早期検討・実施

現在、東京統括支部において、「防災マップ等作成に関するプロジェクト」を立ち上げ、年度内作成に向けて検討を進めています。

● 総括

○ 171サービス関係

- ・171サービスについては、
「小学生が知らない」 67%
「一般が知らない」 18%
と回答しています。

- ・本件のアンケート結果には出ていませんが、「録音・再生の体験」は、ほとんどが初めてであり、171サービスの概念を知っていても、災害発生時には活用できないと思われます。
- ・このため、171サービスの周知促進に加え、いろいろな機会を捉え、「録音・再生の体験」をしていただく場所の提供が必要だと思われます。

171キャンペーンの継続、「録音・再生体験」の機会提供

以上